

鹿児島教区主催 第27回夏期集中講座「山上の説教」(マタイ5~7)

2018年8月20日~24日

## 第1講レジュメ 山上の説教の基本的性格

### (1) 山上の説教は新たな律法か？

J.・エレミアスによれば従来の解釈は三つのタイプに分類できる。

#### ① 完全主義的解釈・②実行不可能説・③中間倫理と考える立場・

完全主義的・救済教育的・中間倫理的律法とみなすという違いはあっても、山上の説教を律法とみなすという点では共通性がある。

では、山上の説教は人を人間の努力に任せ、せいっぱいの努力を注ぐように仕向ける律法の集大成か？

### (2) ディダケーとしての山上の説教

マタイ福音書の5大説話集(5~7, 10, 13, 18, 及び23~25章)

はいずれもイエスの話を集めた合成→では何のために集められたのか？

原始教会には、ケリグマとディダケーと呼ばれた二つの形の説教(宣教の話)が知られている。

ケリグマの例→Iコリント15・3-5(古い復活証言)

ディダケーの例(祈りに関する)→マタイ6・5-15(ルカ11・1-13)

両者の内容の違いは、語られる対象の違いによる(マタイの場合はユダヤ人キリスト者、ルカの場合は祈りの初心者である異邦人キリスト者)→山上の説教全体も一種のディダケーと考えられる。

### (3) 要理教育としての山上の説教

このディダケーは何の目的で結集され、どのような場で教えられたのか？

山上の説教の本文構成→別紙「山上の説教の構成」参照→この一大ディダケーは当時のユダヤ人の生活態度とは異なるキリスト者の生活態度を説いている。これは要理教育ないし新受洗者の指導という形で現れていると考えられる。

### (4) 要理教育ないし新受洗者の指導という基本的性格から生じる一つの結論：

山上の説教にはすでに福音の告知が、それに答える悔い改めが、主への信頼に満ちた委託が先立っている。言い換えれば、山上の説教は、いわば福音の呼びかけと応答と言う全体の、応答部分だけが現れているのだといえる。新たな律法ではなく福音の一部。父なる神の子とされた者がどのように生きるのかと言う招き。

→キリスト教倫理というより、〈生きられた信仰〉として読んでみたい。